

県内9酒蔵、自慢の味

販路拡大へ香港で見本市

【香港＝本社・宮本 際酒類見本市「香港国際」アジア最大級の国際ワイン&スピリッツ



香港の酒類見本市で、来場者に自慢の日本酒を売り込む県内酒蔵の代表者ら＝香港・灣仔、香港コンベンション&エキシビションセンター

フェア2018」が10日まで3日間、香港・灣仔の香港コンベンション&エキシビションセンターで開かれ、岐阜県内の9酒蔵が自慢の日本酒を売り込んだ。

香港貿易発展局の主催で2008年から毎年開かれ、11回目の今年は世界中から1千以上の企業・団体が出展。8、9日はバイヤーを迎え、10日は一般公開された。

地酒の販路拡大につなげようと県が公募して合同で出展。三輪酒造(大垣市)武内酒造(同)岩村醸造(恵那市)御代桜醸造(美濃加茂市)千古乃岩酒造(土岐市)小町酒造(各務原市)蒲酒造(飛騨市)渡辺酒造店(同)天領酒造(下呂市)が参加した。岐阜県のブースでは、各酒蔵の代表者が来場者に試飲を勧めてPRした。アジアへの売り込みに力を入れている小町酒造の5代目金武直歩さん(47)は「国内のようなブランド競争や流通のしからみがないので、海外は勝負しやすい」と話す。料理に合う日本酒の開発を進め、香港で先月開かれた国際的なワイン・スピリッツの品評会で、日本酒で唯一の入賞となる銀賞を獲得。フェアでも受賞酒「長良川 純米大吟醸」をPRし、バイヤーから好評を得た。